

湯梨浜中学校だより

湯梨浜町立湯梨浜中学校 校長 武田基資（令和4年9月28日）



全国学力・学習状況調査の結果が返ってきました

全国学力・学習状況調査は、3年生を対象に、今年度は例年の国語、数学に加えて理科も実施され、学習指導要領で国が求めている学力の達成度と、学習への取組や生活習慣、学習環境などの状況について調査するものです。本来は4月19日に予定されていましたが、本校では直前に新型コロナウイルス陽性者があって臨時休校となったため、翌4月20日（水）に実施しました。そのため正式な集計から除外されていますが、参考として全国、鳥取県の傾向と比べることができます。

国では、この調査で測定できるのは学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面にすぎないと説明していますが、結果を参考にしながら学びの質を向上させていきたいと思えます。

正答率%	国語	数学	理科
本 校	69	48	46
鳥取県	68	51	49
全 国	69.0	51.4	49.3

※学校・県は小数を四捨五入して
整数値のみ公表

【1 学力に関する調査から】

右上の表のように、全体の正答率では国語が県平均や全国平均と同程度で、数学と理科は県および全国よりやや低い結果でした。個々の設問からは、以下のような特徴が見られました。
（○：県や全国と比較した正答率が高い ▲：低い）

《国語》○根拠を明確にして書くなど情報の扱い方や相手に伝わるように書くこと。

▲話すこと・聞くことのうち、特に、論理の展開に注意して聞くこと。

《数学》○図形に関すること（合同条件の理解、反例の理解）。

▲数と式に関する内容（方程式や素数など）で、きまりに当てはまるものを見つけたり、きまりが成り立つ理由を説明したりする力

《理科》○グラフの作成の技能。生物どうしを比較して調べる思考・判断・表現の力。

▲静電気、大気圧、岩石、状態変化と熱に関して、時間的・空間的な見方を働かせた分析力やデータをもとに考察する力。

【2 学習への取組や学習環境などに関する調査から】

この調査は質問紙によって、学校や家庭での生活や学習の状況を尋ねたものです。これまでの調査から、学力と生活環境は関係が深いと言われています。県や全国に比べて、本校の3年生は以下の特徴が見られます。

○望ましい傾向の項目（そう思う生徒が、県・全国より多い）

自分で決めたことはやり遂げる。 難しいことでも失敗を恐れず挑戦する。 自分と違う意見について考えるのは楽しい。 家庭には多くの本がある。 自然の中で遊んだり観察したりする。 住んでいる地域の行事に参加している（県・全国よりかなり多い）。放課後や週末はスポーツをする。 授業（調べ・意見交換等）でICT機器を利用した（県・全国よりかなり多い）。 話し合いで考えを広げたり深めたりできた。 ネットやゲーム利用時間（平日は県・全国と同等、休日は少ない）。

▲課題があると思われる傾向の項目（そう思う生徒が、県・全国より少ない）

朝食を毎日食べる。 将来の夢や目標を持っている。 困りごとや不安があれば学校の先生などに相談できる。 人の役に立つ人間になりたい。 家で自分で計画を立てて学習している。 家庭学習等の時間（平日1時間以上、休日2時間以上の割合）。 学校以外での読書時間（平日30分以上）。 新聞を読む。 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある。 普段スマホやPCを勉強のために使う。 授業中、各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる活動をした。 授業は自分にあった教え方、教材、時間になっていた。 分かった点、分からなかった点を見直して次の学習につなげた。

数学の勉強が好き。数学の勉強は大切、内容はよく分かる、将来社会に出て役立つ。

理科の勉強が好き。理科の勉強は大切、内容はよく分かる、将来社会に出て役立つ。

【3 今後の取組について】

国語は県や全国と比べて同程度でしたが、数学と理解については正答率が上回った問題もありましたが、全体として県や全国よりやや低い結果となりました。特に基礎的な計算の力やきまりや用語の意味を正しく理解して使用する力、静電気、分子の様子など見えないものを想像して思考する力などに弱さがあります。今後はこうした分析をもとに弱点を補充するよう対応していきたいと思います。合わせて、生徒一人ひとりによる違いもあるため、今後も個に応じた細やかな指導をしていきます。

学習への取組状況では、ICTの活用や生徒同士が関わり合う活動、話し合いを通じて力を伸ばしている様子があり、これをさらに充実させていきたいと思います。心配な点は数学や理科において、学ぶ意欲や学ぶ意義を感じる力が弱いことです。各教科の特性を踏まえながら、驚きや発見、新たな気づきを大切にして、実生活での有用性が感じられるような授業を工夫するとともに、協同学習の授業づくりの研究を深め「分かった」「できた」と感じる場面を増やしていくなど、主体的に学ぶ姿を目指した研究をさらに進めていきたいと思います。また、協同学習の実践を生かして望ましい人間関係の構築にもさらに力を入れていきます。

今回の3年生の春の調査結果は、これまでの中学校2年間の積み重ねの結果であると考えられます。この結果を参考に1年生、2年生も含めて学校全体の取組を改善していきます。

《今後、大切にしたいこと》

- 引き続き「協同学習の理念」を取り入れた授業づくりの研究を進め、主体的・対話的で深い学びを実現していく。
- 各教科や総合的な学習の時間などの取組の中で、基礎・基本の定着とともに、身につけた知識や技能を活用して、必要な資料・情報をもとに自分の考えを持ち、用語を正しく用い根拠をもって説明する力を鍛える。
- 授業と家庭学習の関連を大切にし、計画的に家庭学習に取り組む態度を育む。
- 小学校との連携を深め、9年間の一貫した教育の推進を図る。
- 地域とのつながりを大切にし、大人から大切にされる経験を増やし、自己有用感や規範意識を高めるとともに、社会のために何ができるか考える機会を設ける。